

事業所名	こどもプラス三日月教室		公表日		令和7年3月20日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		収納を増やし、マットも張り替え、窓の下にも緩衝材を貼り、危なくないように環境を整えた。窓が大きい為飛散防止フィルムを張っている。また、直管蛍光灯にもカバーをつけている。	あまり角はないが、角の部分の緩衝材が必要。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		児童の人数に合わせて職員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		仕切りもなく、ほぼバリアフリー状態。周りが良く見えるようにし、貼り物などの場所を変えず、児童に分かりやすいように配慮している。個別の部屋も用意している。帰りの送迎順番などは、児童が来る前に掲示している事で分かるようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		清掃は毎日。身体を大きく動かすことができるよう、物をなるべく置かないように心がけている。窓も大きく明るい空間になっている為、心地よく過ごす事ができていると思われる。	その日の気温でだいぶ変わってくるため、温度調節が難しいが、換気をしっかりとしていきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		落ち着きたいときの部屋も準備しており、必要に応じて使う事ができるようにしている。	児童の様子を見て声をかけているが、なかなか個別の部屋の利用がない。意外と寝る場所になっている事が多いため、改善しなければならぬ。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		その日休みだった職員に対しては、出勤したときに伝えるようにしている。また、申し送りのノートにも記載している為、見て貰うようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		年度末には評価を行い、保護者の方の気になる内容に対して話し合いをし業務改善に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		AMの時間を活用して、全体での話し合いを行う。基本的には、何でも話しが出来る環境にあり、たくさんの意見を取り入れて業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	-	-	外部評価行っていない。	必要になれば行わないとならない為、第三者を引き受けてくれる人を探す。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7		時間を確保して、できる時に外部の研修に参加したり、本部のオンライン研修を受講したりしている。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		R7.1月 公表済	定期的に確認をして見直す。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		アセスメントを通して、案を作っている。	子どもに対するアセスメントをもっと充実させていきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		アセスメントと案を元に、職員で話し合いをし計画を立てており、そこで共通理解をしながら支援計画に繋げている。	保護者様の意見を取り入れる事が多くなっていく為、もっと子どもの意見を取り入れていきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		職員間の話し合いの中で、必用であれば専門的支援なども取り入れ、それに沿った支援を行っている。	計画的にしていきたいが、その日の子どもの状況もある。できるだけ計画に基づいた支援をするよう心掛ける。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		フォーマルなアセスメントを元に、その日の児童の状況や行動を見て確認していき、その時の状況に合った活動をしなが、児童の確認をしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		支援の内容については、保護者様にも確認をしている。職員全体での話し合いもしている為、児童の状況に合わせた支援内容になっている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		その日の状況に応じて話し合っ活動を決めている。数種類の活動を児童に提案できるようにしている。	

支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		静、動の活動をできるだけ取り入れるようにしている。数種類の活動の中から、みんなが楽しむことができる活動を児童も含め何をするかを決めている。しかし、臨機応変も知ってほしいため、急遽変更する場合もある。	集団活動の際に、なかなか入れない児童もいる為、なるべく簡単な活動でみんなが入って楽しいと思う事ができる活動を考えていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		集団活動を苦手とする児童もいるため、少人数から始めていき、できるだけ自然に周りも入って来るような、子ども同士で声掛け合って楽しめる様な計画、支援を心掛けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		役割分担はその日にしており、役割以外の事が出てきた時には、一人一人が周りを見て支援を行うようにしている。	担当を決めておらず、担当を決めた方がいいのか検討中。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		記録以外に気付いたことがあった時には、申し送りのノートに記入しており、いつでも確認ができるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		毎日記録の記入はしている。職員や保護者様と話し合いや計画を作る際にも活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		定期的にモニタリングは行っている。気になる事がある場合には見直しを行う。	子どもが利用している時間で、一緒に話しが出来るようにしていきたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7		行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		好きな活動を数種類決めて、児童が選択できるようにしている。また、児童と話し合う事もある。	子ども同士の話し合いの中で、表情のみでしか表現できない児童のこともしっかりと見ていき、職員が伝えてあげられるようにしていきたい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		基本的には、児発管が参画しているが、児童が信頼している職員がいく事もある。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	いつでも連携できるように体制は整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		送迎時に学校の先生と顔合わせをし、顔見知りになり協力しやすいように心がけている。その日の様子で学校の連絡帳も見せてもらうよう保護者様に伝えている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	支援会議の時に共有することが多い。	支援会議がない時にも、こちらから連絡を取って情報共有するように心がけていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	卒業した児童はいたが、福祉サービスへの提供はしていない。相談支援を通しての提供があったかと思われる。	今後、できるだけ提供していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		機会があれば研修などを受け、相談もしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	予定を組んでの活動は特にしていない。公共の場へ行き、仲良くなって一緒に遊んでいる姿は良くみられる。	色々と考えてはいるが、まだまだ検討が必要。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時に話をする事が多い。気になる事があれば、メールや電話で話し、共通理解をしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	研修等で聞いた話などを伝える事が多い。	現在、本部担当の方をお願いしている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明している。変更があった際には再度、説明をしたりプリントでお知らせをしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		普段から児童と話しをし、何気ない会話から困りごとなどを探っていくようにしている。また、保護者様には送迎時に話を聞いたり伝えたりすることで確認をしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		説明を行った上で同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		基本的にはメールでの相談が多い。その都度、助言、提案をしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	—	—		毎年行っていたが、今年度は、感染症の流行で中止となってしまった。来年度、また機会を設けて、親子、兄弟 楽しんでもらえるような機会を設けていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情があった場合には、全体で話し合いをし、早急に対応する様にしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		おたよりを作成しており、その中でお願いしたいことや訓練をしたことなどを発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		充分に気をつけている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		簡単に分かりやすく話すようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		行っていない。今後、祝日などを使い、何かを出来ればと検討中。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		行っている。行った際には、送迎時に伝えたり、おたよりで周知している。	マニュアルに関しては、保護者様にももう少し詳しく伝える様にしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		行っている。訓練をすると必ず反省などが出てくるため、その都度マニュアルも見直すようにしている。	危険箇所をもっと把握できるように、お散歩などを通して、児童にも分かってもらおうようにしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		服薬が変わった、量が変わった、予防接種したなどは、保護者様から積極的に伝えていただけるため、大変助かっている。契約時、児童の様子を聞くときに、必ず聞いている。その後は定期的に聞くようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	事前に保護者様から聞くようにしている。クッキングの際は、しっかりと対応できるようにしている。	今までが、該当者なしだった為、今後クッキングやおやつ時には細心の注意を払い口にに入れるものの成分などを見るようにしていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		一年間の計画を立てた上で研修や訓練を行っている。課題がある場合は、児童の安全を考えた上で見直しを行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		訓練や研修など、その内容はおたよりにて周知をしている。引渡し訓練などを行い、連携を図れるようにしている。	どうしても、同じ家庭になりがちなため、それぞれの曜日での引渡し訓練も検討中。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットは書面に残し、職員に周知し再発を防ぐためにも、検討をしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		本部、外部の研修に参加する様にしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		計画にも記載しており、保護者様にも伝えている。また、どうしても行わないといけない場面があった場合には、保護者様に事前に伝える事と、行った後にも伝えるようにしている。また、記録に残すようにもしている。		